

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間: 2024年12月
結果公表日: 2025年3月27日

回答率

事業所職員: 4名回答、回答率 約67%
保護者様: 17名回答、回答率 約68%

職員の意見

○環境・体制整備

教室の環境は、利用者目線で利用目的に合わせた境界線が出来ている利用しやすい教室になっている。

体制は、送迎の都合上、教室状況によっては指導員が不足してしまう場合があるため、業務前MTG等で支援・安全面について検討している。

○業務改善

スタッフ間での意見交換を普段から行い、常日頃から業務前MTG等を行うことで、支援の質の向上を図ることはもちろん、各々の業務を分担しており、スタッフ間で協力し合えるような業務体制になっている。

○適切な支援の提供

業務前MTGや、個別支援計画作成の際に、普段からの生徒の行動や個別課題、行動の前後関係などをスタッフ間で話し合うことで、生徒への支援内容をその時々に合わせて適切なものに更新し続けている。

○関係機関や保護者との連携

相談事業所とも連携を図り、一部の利用者と円滑に情報共有を行っている。学校との情報共有は個人情報扱いになる為、内容に寄っては学校からではなく保護者と直接のやり取りを実施している。

○保護者への説明責任等

ニュースレターにて、前月の活動報告と次月の活動予定のお知らせをしている。契約時に重要事項を丁寧に説明し、個人情報の使用同意をいただいた上で契約を行なっている。

○非常時等の対応

月に1回活動の中に避難訓練を設けることによって、毎月それぞれ異なる場面に合わせた非常時の対応に関する訓練を執り行っている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

①活動等のスペースの確保で「はい」の回答76.5%、「どちらともいえない」11.8%
「わからない」11.8%

②職員の配置については「はい」の回答70.6%、「どちらともいえない」23.5%「未記入」5.9%
保護者のご意見「新しい教室をまだ見たことがないため、教室スペースは分かりません」

○適切な支援の提供

⑤子どもの特性に応じた専門性のある支援が行なわれているかについて
「はい」の回答100%

⑩活動プログラムは固定化されないように工夫されているかは「はい」の回答88.2%
「どちらともいえない」11.8%

○保護者への説明等

⑫利用のする際に丁寧な情報の説明が行われていたかについては「はい」の回答88.2%
「わからない」5.9%、「未記入」5.9%

⑱保護者会の開催等がなされているかについては「はい」の回答11.8%、「いいえ」29.4%
「どちらともいえない」の回答23.5%。

⑳㉑㉒については「はい」の回答が平均約78.3%

○非常時等の対応

避難訓練の取り組み等は毎月実施しているが、保護者への避難訓練の内容の周知が足りない可能性がある。

○満足度

事業所の支援に「満足している」の回答88.2%、「未回答」約11.8%

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

教室の様子を確認してもらうために、サービス時間内での自由時間や療育活動の時間にも見学可能な時間帯を設け、実際に状況を見てもらって今後の支援についての相談をより深く行っていく。

○改善できた点・まだ残る課題

数回活動等を見ていただく機会を設け、送迎等出来ていただいた際に様子を見てもらう機会を作っている。

課題としては、現状として未だ教室外の情報が少ない為、関係機関や連携できる事業所等をよりを増やしていきたい。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・保護者様からのアンケート結果から、教室内においての利用者様への適切な支援や、保護者様への普段からの情報の共有等をして支援を行っているという点においては良好な回答結果をもらえており、信頼していただけている。
- ・それぞれのご家庭に対しての利用規定などの説明や、利用者様の様子についての交友といった連絡や報告等については良好な回答結果をいただくことが出来ている。

○改善点

- ・保護者会や放課後児童クラブ等との交流などといった、外部での交流が極端に少ない、面会式以外にもそれぞれの立場から情報共有をできる場面を提供すべき。
- ・教室内の状況が実際に見れないという事もあり、正確な教室内の状況が分からないため、教室内の状況をより開示できるような試みを行う。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・対象が中高生の教室の為、これまでの改善計画から引き続き特別支援学校に通うご利用者様に対しては自立を目標とした生活スキルの向上等のための支援を行っていくことでご本人様や保護者様が望む進路に進んでいけるような支援体制を整備し、また、就労B型や就労移行支援などに進むことも視野に入れた支援体制の構築を行う。
- ・父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等の、保護者同士の交流の機会といった、ご利用者様の交流が少ない点については、活動の時間に保護者様にご見学していただく機会を作り、半年に1度程度の頻度で、保護者会等の交流の場を設ける、等といった形式で交流の機会をご提供できるように検討していく。
- ・支援級に通う学生のご利用者様に対しての対人スキルや学力等を含めたSSTの実施。今後の進路に必要なスキルについてをより強化していけるような支援体制の構築を行う。また、支援級の進路先の相談や関連機関との関係を構築して行く。

○1年間で取り組む具体策

- 支援学校に通っているご利用者様に対しては、個々人に合わせた支援を行うことが出来るように、一人一人の求められるスキルを指導員間での検討はもちろん、学校や外部事業所、保護者様などと連携して環境ごとの摩擦を減らし、集団活動や個別課題のステップアップや見直しを行っていく。
- また、支援級のご利用者様には個々人のレベルに合った私生活や面談等といった様々な場面に対応するスキルや場面に応じたSST等を行う。

スマートキッズ